

授業を見学して学んだこと

前教育学部長 教授
教育学博士 手打明敏

はじめに

「臨床心理士・公認心理師試験対策」(担当:新井雅人講師)を見学させていただき、中島恒雄総長のご指導を拝聴させていただき、試験対策授業を担当する教員が留意しなければならない授業方法等について学ばせていただきました。

1. 中島総長のご指導にもとづく試験対策授業

授業開始に先立ち、中島総長が強調されていたことは、試験対策授業は「どうやったら学生が臨床心理士・公認心理師試験に合格するか」という目的に合わせた授業をおこなうことである。試験対策授業を担当する教員は、学生がそれまで学んだ知識を問題の正答に結びつけることに専念すべきであり、教員が専門的知見を解説する必要はないのである。そのような「余分なことを教員がしゃべると学生が迷う」ことになるからである。教員の役割は、学生が意欲をもって試験問題に取り組むよう援助することであり、そのためにはポイント絞って教える必要があるということである。

中島総長の指導を受けて、本授業の担当教員は教科書(問題集)の問題と解説を学生に読ませ、どれが正答かを明示したうえで、選択肢の問題を一つひとつ読ませて正誤の根拠を確認し、30秒から1分程度の時間をとって暗記させた。さらに最後に5分程度の時間をとって問題と解説を暗記させた。休憩をはさんで後半の授業開始時に10分間の時間をとって前半の授業で取り組んだ8問を再度暗記する時間を設けていた。そして後半の最後には20分間の時間をとって、本日取り組んだ11問を学生に暗記させた。本授業の「確認テスト」では出席者(11人だったと思います)全員が満点という結果となった。

2. 本授業を見学して学んだこと

本授業の担当者は、14問を用意していた。しかし、中島総長のご指導を受け、1問ずつ丁寧に問題と解説を読み、暗記することを繰り返した。2コマつづきの授業の半分近い時間を暗記することに割いていたように思う。問題をたくさん解くことが目的ではなく、学生が理解し覚えることができるよう指導する必要がある。そして、授業で覚えたことを繰り返し復習することで「記憶の定着化」を図ることが大事であるということである。担当教員としては、学生が授業終了後も繰り返し暗記することの重要性を指導する必要があると思いました。

おわりに

本授業のような進め方は受講する学生にとっては「疲れる学習」になる。学生が集中して学び、暗記するから疲れるのであり、このような「疲れる学習」を繰り返すことが「合格」に結びつくという中島総長のご指摘は、総長ご自身の体験に裏づけられた含蓄あるお言葉であると思いました。